

教宣 せぶん

「ハガキ」 ラストスパート

ホームページのトップに、裁判所への要請行動として取り組んでいる団体署名と個人署名（手書きのハガキ）の集計が掲載されました。この取り組みは、地位確認訴訟の裁判官が、判決文を書くであろう2月20日頃までに、少しでも裁判官に「世論」を伝え、大企業の横暴にストップをかける「勇気」を与え、勝利判決をかちとる「道筋」を確かにさせるために行なっている要請行動のひとつです。全損保の組織をあげて取り組んで頂いています。私たちも、全国各地で労組や団体を回り団体署名を集めていますし、身の回りの人を中心に自筆のハガキを一人最低30枚お願いして、この運動を中心的にすすめようと取り組んできました。連日、東京地裁には、全国津々浦々から私たちのたたかいを応援する「ハガキ」が届けられているそうです。

この「自筆のハガキ作戦」の考案者は、この取り組みの原点が全損保で以前に取り組んだ「ひとり一言運動」だと言います。一人ひとりが思いを文章として表現することによって、一冊の本が生まれ、「同じことを考えていた人がいる」という共感や「他の職場ではこんなことが起きているのか」という驚きがその本から発信されました。そして、働くものが感じている「不安」や「憤り」を、一つひとつの運動に「力」として結び付けてきました。今回のハガキ作戦も、まさに、私たちの「窮状」や会社の「暴挙」を世間にしらしめ、世論に訴え、「共感」や「怒り」を文章にまとめて表現してもらい、それを「力」にかえようとするものです。20日まで残りわずかとなりましたが、最後の最後まで、できることをやり切りましょう。1枚でも多くのハガキを裁判所に届けましょう。顧客や家族、親戚、知人・友人、家族の知人・友人など、もう一度、お願いできるところがないか、考えましょう。この取り組みはいましかできません。ラストスパート、頑張りましょう。